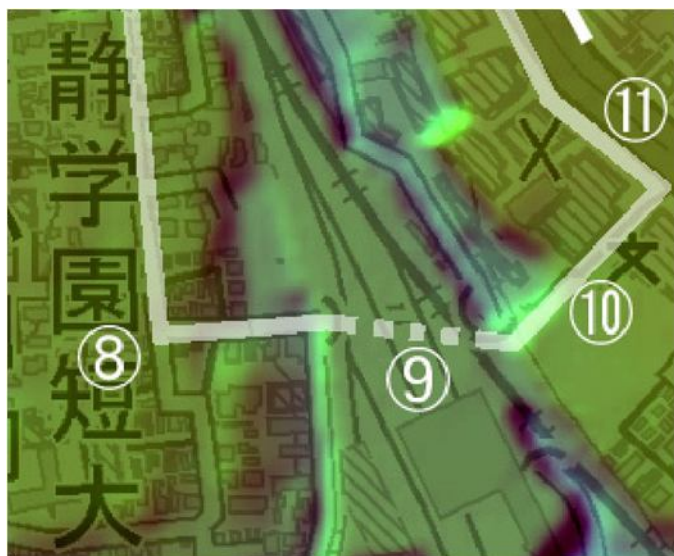


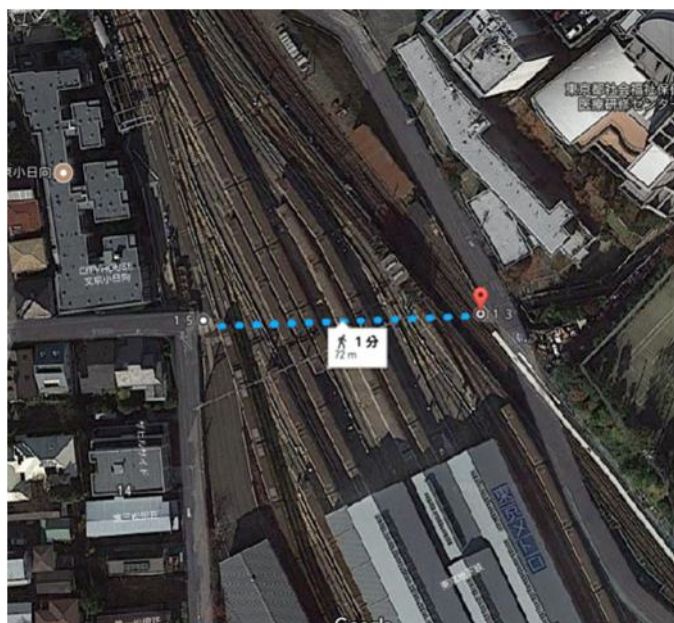
## 「ぐるっと茗荷谷・街たんけん(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今回の「街たんけん」のハイライトの一つが、丸ノ内線のトンネルである。丸ノ内線は地下鉄なので、本来は電車がトンネルを走るはずだが、ここではちがう。世にも珍しい「地下鉄の下をくぐるトンネル」である。

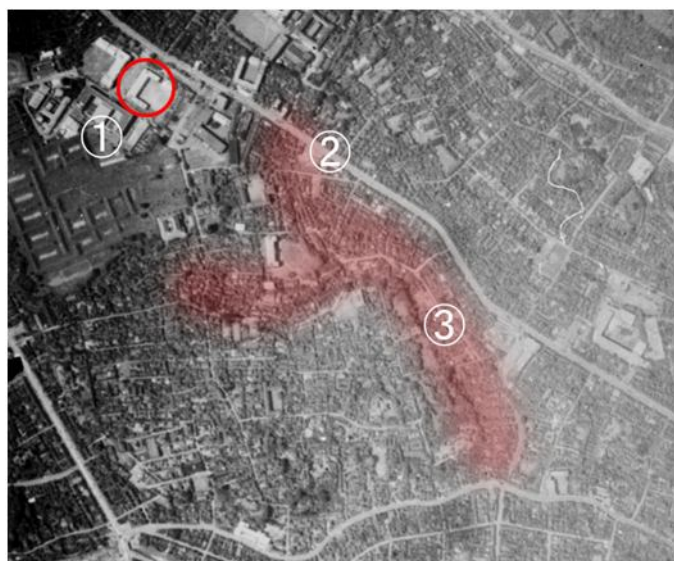


地図の⑨の地点だ。ここはもともと「茗荷谷の底」だった場所に、丸ノ内線の車庫(引き込み線)を建設するために、大規模に盛土をしたところである。線路は周囲の段丘面よりもわずかに低いので、⑨の道は陸橋でも渡れたはずである。しかしトンネルになっているのが面白い。子どもは「徒歩トンネル」が大好きだ。



航空写真で見ると、確かに丸ノ内線の車庫の下を通っている。トンネルの上には、6両編成の地下鉄車両

がたくさん停まっている。トンネルの長さは72メートル。一般の通行が可能な公道としては、文京区で一番長いトンネルだろう。



写真は1944年(昭和19年)の茗荷谷付近の航空写真である。(国土地理院提供、田中加筆) 薄く赤で色をつけたところが、神田川の枝谷である茗荷谷である。源流付近は二股に分かれている。その右股(北側)の源頭が現在の茗荷谷駅である。環三通り(小石川桜並木)もまだ存在しない。①は本校の旧校舎、②が現在の茗荷谷駅の位置、③が丸ノ内線車庫とトンネルの位置である。丸ノ内線の開通は戦後(昭和29年)なので、この時点では建設も始まっていない。車庫の盛土もないので、谷の全貌がよくわかる。特に西側の段丘崖のエッジ(写真の③地点の左側)が際立っている。



写真は⑧の地点からトンネルの入口に向かう下り坂である。「切支丹坂(キリシタン坂)」という。特に坂の下り始めが急で、これは戦前からの地形の名残だろう。先をゆくベビーカーのご婦人は、慎重に歩いていたので、そのあとをゆっくりついてゆくことにした。